

第6回三陸海域の水産業と海洋研究集会
サンマ漁業を取り巻く現状とこれから

日 時：2019年12月9日（月）13:00～17:15

場 所：大船渡魚市場会議室（岩手県大船渡市大船渡町字永沢209）

共 催：一般社団法人水産海洋学会， 岩手大学三陸水産研究センター

後 援：大船渡魚市場株式会社

コンピーナー：後藤友明（岩手大三陸水研セ）， 巢山 哲（水産機構東北水研）， 渡邊一仁（宮城県水産林政部）

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1. 挨拶： 山下 洋（一般社団法人水産海洋学会長） | 13：00～13：05 |
| 2. 趣旨説明：後藤友明（岩手大三陸水研セ） | 13：05～13：15 |
| 3. 話題提供 | |
| | 座長：渡邊一仁（宮城県水産林政部） |
| （1）漁期前調査からみるサンマの資源動態 | 13：15～13：45 |
| 巢山 哲（水産機構東北水研） | |
| （2）近年のサンマ漁場形成と海洋環境変動 | 13：45～14：15 |
| 黒田 寛（水産機構北水研） | |
| | 座長：巢山 哲（水産機構東北水研） |
| （3）2019年漁期の漁場動向 | 14：15～14：45 |
| 渡邊一功（漁業情報サービスセンター） | |
| （4）NPFCにおける資源評価と資源管理・保存措置 | |
| 大島和浩（水産機構国際水研） | 14：45～15：15 |
| | 座長：後藤友明（岩手大三陸水研セ） |
| （5）岩手県におけるサンマ漁業と漁海況の動向 | 15：30～15：55 |
| 佐藤俊昭・児玉琢哉（岩手水技セ） | |
| （6）地域社会を支えるサンマ漁業の重要性 | 15：55～16：25 |
| 濱田武士（北海学園大） | |
| （7）サンマ産業とSDGs | 16：25～16：50 |
| 渡邊一仁（宮城県水産林政部） | |
| 4. 総合討論 | 座長：後藤友明（岩手大三陸水研セ） 16：50～17：15 |
| 5. 閉会 | |

開催趣旨：サンマは北太平洋の中緯度域に広く分布する小型浮魚で、1940年代に火光を利用した棒受網が普及し始めて以降、北日本の重要な沿岸・沖合漁業として位置づけられてきた。サンマ漁業は、これまで主として日本とロシアのEEZ内で行われ、我が国では2006年から漁獲可能量制度（TAC）による管理が行われてきた。しかし、近年、三陸から道東沖での暖水塊の長期停滞など海洋環境の変動に伴い分布の沖合へのシフトが生じて我が国近海で漁場が形成されにくくなる一方で、複数の国による公海域での操業が行われるようになり、サンマ漁業を巡る情勢は急速に変化している。このような情勢の下、北太平洋漁業条約（NPFC）が2015年に発効され、国際的な枠組みでの資源評価と資源管理が始まっている。これまで比較的安定した漁業とされてきた我が国のサンマ漁業は転換点を迎えており、持続的な漁業としての対応が問われている。本研究集会では、サンマ資源と漁業に関する最近の知見をとりまとめ、東北地区の持続的なサンマ産業のあり方について考察したい。